

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第一三共バイオテック株式会社 北本工場 製造研究棟 J棟	階数	地上5F
建設地	埼玉県北本市	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	予定	評価の実施日	2024年11月26日
敷地面積	11,113 m <sup>2</sup>	作成者	毛塚 順次
建築面積	3,093 m <sup>2</sup>	確認日	2024年12月2日
延床面積	11,813 m <sup>2</sup>	確認者	毛塚 順次



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 76% (35 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 76%

④上記+: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

音環境	2.6
温熱環境	3.6
光・視環境	1.8
空気質環境	3.6

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

機能性	2.1
耐用性・信頼性	3.4
対応性・更新性	3.6

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.3

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化への配慮	3.9
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	特になし。
Q1 室内環境	換気量が30m <sup>3</sup> /h人を確保します。全館禁煙としている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
Q2 サービス性能	積層ゴム系支承受用している。 階高: 3.9m以上 床荷重: 4000N/m <sup>2</sup>	
LR1 エネルギー	BEIm = 0.49	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率76%。 光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。
LR2 資源・マテリアル	LGSを使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 第一三共バイオテック株式会社 北本工場 製造研究棟 J棟

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>		-				<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15		-				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40		-				
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40		-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20		-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.5</b>	0.35		-				<b>3.5</b>
2.1 室温制御		<b>4.1</b>	0.50		-				
1 室温	居室製造エリアの大部分において23±2°Cの設定とし、室温の条件を満足します。	5.0	0.38		-				
2 外皮性能		3.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性	ゾーニングがなされており、さらにゾーン別に冷房・暖房の選択が可能な空調システムとしている。	4.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20		-				
2.3 空調方式		3.0	0.30		-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.8</b>	0.25		-				<b>1.8</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30		-				
1 昼光率		1.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.30		-				
1 昼光制御		1.0	1.00		-				
3.3 照度		<b>2.0</b>	0.15		-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25		-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25		-				<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50		-				
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00		-				
4.2 換気		<b>2.6</b>	0.30		-				
1 換気量	換気量が30m <sup>3</sup> /h人を確保します。	4.0	0.33		-				
2 自然換気性能		1.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-				
2 喫煙の制御	全館禁煙としている。	5.0	0.50		-				
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		-				<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.1</b>	0.40		-				<b>2.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>1.6</b>	0.40		-				
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		<b>2.0</b>	0.30		-				
1 広さ感・景観		1.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33		-				
3 内装計画		3.0	0.33		-				
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.4</b>	0.30		-				<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.4</b>	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能	積層ゴム系支承使用している。	5.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		<b>4.2</b>	0.20		-				
1 空調・換気設備	外調機(換気系統)は保安動力系統になっており、災害時優先的に供給される仕様です。	5.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備	節水型器具を採用している。	4.0	0.20		-				
3 電気設備	重要設備系の受電設備の二重化を行っている。	5.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備	精密機械の地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20		-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30		-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.30		-	-	
1	階高のゆとり	階高: 3.9m以上	5.0	0.60		-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40		-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		床荷重: 4000N/m <sup>2</sup>	<b>4.0</b>	0.30		-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40		-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.49	<b>5.0</b>	0.50		-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-		-	-	
4.1	モニタリング			-		-	-	
4.2	運用管理体制			-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60		-	-	<b>3.3</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		断熱材	3.0	0.22		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGSを使用している。	5.0	0.22		-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-	-	
1	消火剤		-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	4.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率76%。	<b>3.9</b>	0.33		-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	騒音		3.0	0.33		-	-	
2	振動		3.0	0.33		-	-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			-		-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。	5.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	第一三共バイオテック株式会社	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	----------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.9	+	3.0	=	6.9	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
ライフサイクルCO2排出率76%。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
特になし。			

 :入力欄